

田神有楽 (2002)

メディア 映画

ジャンル ドキュメンタリー

製作国 日本

色彩 Color

時間 113分

初公開日 2002/11/30

公開情報 ふゅーじょんぷろだくと＝ラピユタ阿佐ヶ谷

【キャッチコピー】

下北半島・六ヶ所村

そこで何が始まり、何が起っているのか、
誰も知らない。

【解説】

“核燃料サイクル施設”建設が進む青森県・六ヶ所を3年半に渡って密着したドキュメンタリー。日本の原子力政策の象徴的存在ともいえるこの東北の小さな村で農業を営む一人の老人にスポットを当て、再処理施設を巡る騒動を記録する一方、それでもひたむきに昔と変わらぬ生活を営む老人の姿を映し出す。監督は「ただひとたびの人」の加藤鉄。

“核燃料サイクル施設”とはウラン濃縮工場、高レベル放射性廃棄物貯蔵施設、再処理工場などを合わせ持つ世界最大規模の原子力施設。本作は、1995年4月に高レベル放射能廃棄物がフランスから青森県・六ヶ所村に初搬入されてから98年10月の使用済核燃料受け入れまでの3年半に渡って、この村の表情を克明に記録したものだ。その間、原子力船“むつ”の解体や3回に及ぶ高レベル放射性廃棄物の搬入、村人参加の討論会など様々な出来事が撮影されていく。また一方でカメラは、核燃料用地にただ一人留まり、神社を守り、森を守り、稲を育て続ける一人の老人の姿を追っていく。

【クレジット】

監督 加藤鉄

撮影 山田達也

柳田義和

編集 福田千賀子